

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 8 日現在

機関番号：32704
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2017～2022
課題番号：17K03942
研究課題名(和文) 地域企業の変容・進化と国際展開に係わる研究：ルーティンとイノベーションの関与

研究課題名(英文) Transformation and evolution regional/local companies and international expansion-involvement of routine and innovation-

研究代表者
大東和 武司(OHTOWA, Takeshi)

関東学院大学・経済経営研究所・客員研究員

研究者番号：40152194
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：最終的な研究成果のまとめのひとつとして、2023年3月に単著『地域企業のポートレイト』を文眞堂より刊行した。またこれに至るまでに、小さな論稿も含めて、15の論文等、国際学会4つを含め15の学会発表を行ない、また3件の分担執筆の書籍を刊行した。
対象とした事例4社の考察による発見事実のひとつは、存続していくために「変わらない部分」「装置」を持っているという点であった。それは、事例各企業によって異なるが、事業展開といった戦略選択がルーティンへの作用反作用となり、新たな学習、知識獲得、またそれが知識の塊となり、新たなルーティンの構築ないし修正となるというイノベーション過程を見いだすことでもあった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義としては、SEW(社会情緒的資産)研究という理論的背景にもって、国際展開を絡め、地域企業の存続・展開につながる変容ないし進化要因の一部を抽出できた点が大きいと考える。社会的意義としては、企業が何者であるのかを見る際に、新たな視点を提供できたと思われるし、経営者層に企業存続・展開のための伝統への新たな見方とともに、経済的合理性と非財務的効用の有用さへの示唆をあらためて提供できたと考えている。ただ、有用さは、経営者層だけでなく、組織内に拡げていくことが大切である。
なお、こうした視点は、あくまで仮説的な発見事実であり、今後さらなる検討を深める必要があることは言うまでもない。

研究成果の概要(英文)：As a final research result, the single-authored book "Portraits of Regional/Local Companies: International Business in the long view and short view" was published by Bunshindo in March 2023. In the period leading up to this, I published 15 papers, including small articles, 15 conference presentations, including four at international conferences, and three books with shared authorship.
One of the findings based on the study of the four case companies was that they have 'unchanging parts' and 'devices' to ensure their survival. This is different for each case study company, but we also found an innovation process in which the choice of strategy, such as business development, becomes an action-reaction to the routine, and new learning, knowledge acquisition, and the knowledge mass become the building or modification of new routines.

研究分野：国際ビジネス 国際経営

キーワード：地域企業 国際ビジネス イノベーション 伝統 国際展開 変容 進化 変形力

1. 研究開始当初の背景

研究課題を「地域企業の変容・進化と国際展開に係わる研究：ルーティンとイノベーションの関与」をした。しかしながら、コロナ禍またウクライナへのロシア侵攻はまだ生じていなかったものの、グローバル環境の影響が経済面だけでなく政治的側面も含め高まっている（江夏健一・桑名義晴・大東和武司（共監訳）カゾン（2005）『国際ビジネス・エコノミックス』文眞堂）との認識をもっていた。それは、地域企業が人的面また資金面などで大企業に比して制約は大きく、それゆえに地域企業においても、こうした政治面および経済面の企業を取り巻く環境変化の背景を押さえる必要性を感じていた。それは、地域企業における淘汰圧力の理解でもあった。

そのうえで、大企業に比して相対的に厳しい状況のなかで、国際展開への変容・進化をどのように進めているのかについての考察は、日本の今後をみるうえでも、意義深いと考えていた。

具体的には、事例研究に取り上げる地域企業を中心としながら、地域企業の現状把握を行ない、そしてその伝統にかかわるルーティン（能力、背景、学習、淘汰圧力）にとくに着目し、そのルーティンがどのようにイノベーション（革新）に連なっているのか、さらに国際展開へといかに変容していったかに関して、理論的考察を含めて検討する。できる限り緻密な事例研究を行い、地域企業の国際展開への変容にかかわる要因を抽出し、仮説的な発見事実を導き出すこととされていた。

2. 研究の目的

本研究は、ある国の限られた範囲で経営活動を行っていた企業、地域企業が国際展開へと経営活動を変容・進化させていく際の根幹について探索することを目的とした。とりわけ、伝統があり、長年地域産業として存続してきた企業が国際展開へとイノベーション（革新）させていく側面に注目した。時代の変化や経済変動を乗り越え、適応し、持続可能させるために、反イノベーションとも捉えられがちな伝統を築いてきたルーティンをイノベーションの根幹と捉え、国際展開に向けてルーティンをどのように活かしたのか。国際展開に係わる理論的検討とともに、地域企業の国際展開への変容にかかわる事例研究を行ない、変容・進化要因のインプリケーションを得て、多くの地域企業の将来への寄与、また国際ビジネス研究の新たな理論的貢献を期することとした。

3. 研究の方法

地域企業が対象なので、それにかかわる文献的調査とともに、事例として取り上げる企業の抽出を行い、当該企業へのインタビュー、ヒアリングによる細やかな実地調査が重要な役割を果たす。さらに、ルーティン、イノベーションについての文献的調査を重ねて行うとともに、国内親会社、海外子会社でのインタビュー、ヒアリングによる調査も併せて重要であると考えた。加えて、多国籍企業論、国際ビジネス論だけでなく、組織論、経営管理論など、関係分野の研究者との意見交換も重要だと考えた。さらに、国際ビジネス研究学会ほか積極的な学会発表等を通じて、ひろくコメントを聞くとともに、論文の改善、精緻化に資することとした。

4. 研究成果

最終的な研究成果のまとめのひとつとして、2023年3月に単著『地域企業のポートレート』を文眞堂より刊行した。またこれに至るまでに、小さな論稿も含めて、15の論文等、国際学会4つを含め15の学会発表を行ない、また3件の分担執筆の書籍を刊行した。

文献調査以外に、研究期間で直接にヒアリングした企業は数十社に及ぶが、最終的には事例研究として、創業間もなく創業者の想いが色濃く事業展開に出ている Archis 社（貿易を軸とした国際展開）、書筆を化粧筆に展開させた白鳳堂（国際的ブランドの化粧品メーカーへの OEM 供給による国際展開と日本国内への化粧筆市場の構築）、備後緋からデニムへと転換したカイハラ（国際的トップデニムメーカーへの中間財輸出による国際展開）、そして海運から造船へ、またいち早くフィリピン・セブに造船業を国際展開させた常石グループ（対外直接投資による海外子会社設立による国際展開）の4社に絞って、事例研究を行なった。

発見事実のひとつは、存続していくために「変わらない部分」いわば「装置」を持っているのではないか、という点である。それは、事例各企業によって、「想い」であったり、「道具」であったり、「温故創新」であったり、「地域づくり（地域の人びと）」であったりと微妙に異なるのであるが、それは、「現在」から「過去」を踏まえ乗り越えながら「未来」に向かう動きとなっていた。伝統をふまえた理念の構築といていいし、「伝統の評価と克服」であった。それは、事業展開といった戦略選択がルーティンへの作用反作用となり、新たな学習、知識獲得、またそれが知識の塊となり、新たなルーティンの構築ないし修正となるというイノベーション過程を見いだすことでもあった。

加えて、この発見事実は、「絶えざる内省と逸脱的再構築」ともいえる、あくなき学びと革新（イノベーション）につながっていた。

さらに、その促進にも、補完ともなる「国際性と機会を逃がさない行動」ともいうべき視野の

広さと行動があり、縁や出会いを活かす態度と行動、つまりネットワーク（社会関係）を大切に
する姿勢があり、他者や社会への敬意があり、そうした謙虚さがあるがゆえに（自分自身に凝り
固まらない）確固たるアイデンティティにつながっている。

こうした理論的背景としては、SEW（社会情緒的資産）研究が妥当すると思われる。その企業
のSEWは、単に経営者、ファミリーのみにあるのではなく、組織内に存在していく。「地域」の
もたらずSEWを組織内に拡げて、財務的効用とのバランスを取ろうとし、経済的合理性と非財務
的効用の両立をはかることによって、それぞれの企業は存続をつなげていると思われる。

本研究の学術的意義としては、SEW（社会情緒的資産）研究という理論的背景をもって、国際
展開を絡め、地域企業の存続・展開につながる変容ないし進化要因の一部を抽出できた点が大き
いと考えられる。

社会的意義としては、企業が何者であるのかを見る際に、新たな視点を提供できたと思われる
し、経営者層に企業存続・展開のための伝統への新たな見方とともに、経済的合理性と非財務的
効用の有用さへの示唆をあらためて提供できたと考えている。ただ、有用さは、経営者層だけ
なく、組織内に拡げていくことが大切であると思われる。

なお、こうした視点は、あくまで仮説的な発見事実であり、今後さらなる検討を深める必要が
あることは言うまでもない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 No.2893
2. 論文標題 「たまさかの手懐け：地域企業の事例研究からのひとつの気づき」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 世界経済評論IMPACT（2023年3月27日）	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 No.10
2. 論文標題 「地域企業の存続：国際的機会認識の絶えざる見つめ直し」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 NPC NEWS（新潟県生産性本部会報）2022年10月号（秋号）	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 No.2526
2. 論文標題 「リフレイン」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界経済評論IMPACT（2022年5月9日）	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 No.2272
2. 論文標題 「地域同族企業と社会情緒的資産」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界経済評論IMPACT（2021年8月31日）	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 No.2021
2. 論文標題 「国際化の移ろいと国際性」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界経済評論IMPACT (2021年3月29日)	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 282
2. 論文標題 伝統産業にかかわる地域企業の変容過程 紺からデニムへ：カイハラ (KAIHARA) の事例-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済系：関東学院大学経済経営学会研究論集	6. 最初と最後の頁 72-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 64 No.5
2. 論文標題 「ふるまい方」の見つめ直し：総合イノベーションを語る	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界経済評論	6. 最初と最後の頁 79-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 No.1857
2. 論文標題 「貿易と直接投資の若干のふりかえり」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界経済評論IMPACT (2020年8月31日)	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 No.1727
2. 論文標題 「ふるまい方：Covid-19からのひとつの気づき」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界経済評論IMPACT（2020年5月4日）	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大東和武司	4. 巻 26
2. 論文標題 フリースタンディング・カンパニー - その経済空間と国家空間とのかかわりへの試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 戦略研究	6. 最初と最後の頁 15-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 No.1584
2. 論文標題 地域企業のひとつの歩み：リポリューションとしての起業	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界経済評論IMPACT（2019年12月23日）	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 No.1572
2. 論文標題 地域企業のひとつの歩み：想い・思い・念いからの起業	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界経済評論IMPACT（2019年12月16日）	6. 最初と最後の頁 1 2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 No.974
2. 論文標題 「複雑さ」をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 世界経済評論IMPACT (2017年12月25日)	6. 最初と最後の頁 1 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 No.932
2. 論文標題 「いま三浦梅園に学ぶ」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 世界経済評論IMPACT (2017年10月16日)	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大東和 武司	4. 巻 No.826
2. 論文標題 「リアル小売と越境EC、ひとつの可能性」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 世界経済評論IMPACT (2017年4月17日)	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 DOI, Kazuo, Tsutomu KITA, Takeshi OHTOWA and Tomomi SHIOSAKI
2. 発表標題 'The historical evolution of traditional Japanese family companies into "global niche top" companies'
3. 学会等名 1. 学会等名 2022 European Business History Association, June 23, 2022, Madrid, Spain, Proceeding Paper参加 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 土井 一生・城多 努・潮崎 智美・大東和 武司
2. 発表標題 「地域伝統企業の海外展開を通じた成長ロジック-伝統産業2社を事例にした試論-」
3. 学会等名 国際ビジネス研究学会第29回年次大会（九州大学）2022年11月20日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大東和 武司
2. 発表標題 「地域企業の国際展開をめぐる」
3. 学会等名 2022年度第2回備後経済研究会（福山大学）2022年10月4日（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大東和 武司
2. 発表標題 「続・地域企業の国際展開をめぐる」
3. 学会等名 広島市立大学国際学部コロキアム（広島市立大学）2023年1月20日（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大東和 武司・岸本 寿生・竹之内 秀行・山本 崇雄・竹之内 玲子
2. 発表標題 「同族企業の異質性と海外進出の関係-地域企業を対象として-」
3. 学会等名 国際ビジネス研究学会第28回全国大会（専修大学・オンライン）2021年11月7日
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大東和 武司・岸本 寿生・竹之内 秀行・山本 崇雄・竹之内 玲子
2. 発表標題 「地域企業の国際化と社会とのつながり-日系同族企業の事例-」
3. 学会等名 国際ビジネス研究学会第57回関西支部会・第105回関東支部会合同部会（オンライン）2021年8月30日
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大東和武司・岸本寿生・竹之内秀行・山本崇雄・竹之内玲子
2. 発表標題 中堅・中小企業の海外進出 日系同族企業の事例
3. 学会等名 国際ビジネス研究学会第15回中四国部会（オンライン）2021年5月8日
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸本 寿生、大東和 武司、清水 さゆり、ヌルハイザル・アザム・アリフ
2. 発表標題 「フォーラム：ローカル・中小企業の国際ビジネスのパラダイムシフト」
3. 学会等名 国際ビジネス研究学会第27回全国大会（愛知大学）2020年11月15日
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大東和武司
2. 発表標題 フォーラム「日韓間の貿易問題をめぐって」（パネリスト）オンライン
3. 学会等名 国際ビジネス研究学会・韓国国際ビジネス学会共同フォーラム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 OHTOWA, Takeshi, Kazuo DOI, Tomomi SHIOSAKI, Tsutomu KITA
2. 発表標題 Sustainable Transformability Possible Among Traditional Companies : A Case of Japanese Traditional Brush Maker
3. 学会等名 Business History Conference 2019 Annual Meeting (2019年3月14日 16日、Cartagena, Colombia) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大東和 武司、潮崎 智美、土井 一生
2. 発表標題 「伝統的企業にかかわる持続的transformability 白鳳堂をケースとして」
3. 学会等名 国際ビジネス研究学会九州部会(九州産業大学)2019年3月2日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大東和 武司
2. 発表標題 伝統産業にかかわる地域企業の変容と国際展開 カイハラの事例
3. 学会等名 国際ビジネス研究学会全国大会(早稲田大学)2018年11月11日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takeshi Ohtowa, (Junji Inoguchi, Tsutomu Kita, Tomomi Shiosaki)
2. 発表標題 Innovation and Tradition in a Japanese Denim Maker
3. 学会等名 European Business History Association (2017年8月24日 - 26日 Vienna University of Economics and Business) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 大東和 武司	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文眞堂	5. 総ページ数 348
3. 書名 『地域企業のポートレイト 遠景近景の国際ビジネス』	

1. 著者名 広島市立大学国際学部国際ビジネス研究フォーラム【編】	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文眞堂	5. 総ページ数 256
3. 書名 国際ビジネスの現実と地平：地域からの眺望（大東和 武司：はしがき・第11章分担執筆）	

1. 著者名 江夏 健一、桑名 義晴、IBI国際ビジネス研究センター	4. 発行年 2018年
2. 出版社 同文館出版	5. 総ページ数 318
3. 書名 理論とケースで学ぶ国際ビジネス 第4版（大東和 武司：第12章「サービス化と国際ビジネス」）	

1. 著者名 広島市立大学国際学部 際 研究フォーラム	4. 発行年 2018年
2. 出版社 文眞堂	5. 総ページ数 202
3. 書名 際 からの探究：国際研究の多様性（大東和 武司：「あとがき」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------